

香川芳子

女子栄養大学学長



保育所は、保護者に代わり子どもの「食べる、遊ぶ、寝る」などの基本的な生活を保障し、健やかな成長を支える場です。本学では、ここ数年、保育所の栄養士になる者に、卒業前に子どもと食物アレルギーについて学ぶ機会を設けています。現場で食物アレルギー対応が求められる事例が増えているためです。一人一人の状態に細心の注意を払い、食物による事故を防ぐのは栄養士の重要な役割です。残念なことに、子どもの食物アレルギーでは、多くの情報が錯綜してお母さんが振りまわされ、ぶ

つぶつができたからと、自己判断で特定の食物を避けてしまったりといった実態もあります。さまざまな味を覚え、食物の選択の幅を広げ、食習慣の基本を身につけるたいせつな幼少期に、自己判断で特定の食物を制限するのは心身の成長にも大きな影響を及ぼします。仕事や家事で忙しいでしようが、心配があるならば、食物で子どもに起きた変化を書き止め、医師に相談して専門家の診断と指示をおおぐべきです。周囲の大人の勝手な判断で、子どもの食物選択の幅を狭めてはなりません。

自己判断は禁物

子どもの食物選択の幅を

狭めてはなりません